

- | |
|------------------------------|
| 1. 特に効果的であり改善に資した事例 |
| B. 円滑な学位授与の促進 |
| ⑤ポートフォリオ等を活用した到達度の把握と研究指導の充実 |

⑤ポートフォリオ等を活用した到達度の把握と研究指導の充実

《人社系》

●関西大学総合情報学研究科社会情報学専攻

「参加連携型の大学院教育による社会創造」の事例

(具体的に何を実施したのか)

カリキュラムを体系的に構成し、効率的に学生を指導するために、ID（インストラクショナル・デザイン：教授設計）に基づいた目標管理を行い、eポートフォリオ評価を導入して実践した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・ IDによって、情報手段を用いて社会を創造する力の育成に対して具体的な下位目標を設定し、スモールステップで目標を達成させる方法を用いた。また、その過程をeポートフォリオに記録させ、自律的な学習を促すと同時に、きめ細かい指導・評価を行った。
- ・ eポートフォリオの内容をまとめさせ凝縮ポートフォリオとすることで、年度毎に学生自身に更なる振り返りを行わせた。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

プログラムで求める情報手段を用いた社会を創造する力について、学習活動を記録させるポートフォリオと、そのサマリーである凝縮ポートフォリオを用いて、27項目より成るルーブリックにより活動の目標を明確に示し、個々の学生の評価を行うことができた。

《理工農系》

●千葉大学融合科学研究科情報科学専攻

「ナノイメージング・エキスパートプログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

- ・ 半期ごとの研究計画書と研究成果報告書（ポートフォリオ）を活用して学生の研究到達度の把握と研究指導を充実させた。
- ・ 四半期ごとの進捗状況報告会を実施し、複数教員による指導を徹底した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・ ポートフォリオは複数教員によって添削指導した。複数回再提出をさせて、研究目標をより具体的に認識できるよう徹底的に配慮した。
- ・ 進捗状況報告会では1名あたり30分以上の時間を取った。ナノサイエンス、画像マテリアルコースの複数教員10名によって問題点の指摘や研究内容の改善などを徹底的に指導した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・ 研究計画の書き方や論旨の組み立てに関して格段に進歩が見られた。

- | |
|------------------------------|
| 1. 特に効果的であり改善に資した事例 |
| B. 円滑な学位授与の促進 |
| ⑤ポートフォリオ等を活用した到達度の把握と研究指導の充実 |

- ・専門の異なる多様な観点から指導することで、学生の研究に対する俯瞰力が養えた。また、学会などでは得られない新鮮なコメントが多いと学生からも好評である。

●東京工業大学理工学研究科原子核工学専攻

「個性を磨く原子力大学院教育システム」の事例

（具体的に何を実施したのか）

ポートフォリオ・マネジメントは、当教育プログラムをより効果的に推進していくための支援システムとして機能させることを目的として実施した。この目的のために、学生ごとの「教育記録データの収集・整理・蓄積」（ポートフォリオ）と、「教育記録データの利活用」（マネジメント）の二つの視点からシステムを設計し、運用した。4月からこのポートフォリオ・マネジメントを開始し、各学生の教育記録データの収集・整理・蓄積を行った。教育記録データとして収集・整理・蓄積される主なものには、月報、個人情報管理票、習熟度点検票などがある。

（実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと）

毎月学生によって作成・提出される月報は、基本コースワーク活動に関する記録、研究リテラシー活動に関する記録、研究室（論文研究）活動に関する記録とともに、各教育活動に対する学生の感想等が自由記述欄に記載され、教育記録データとして蓄積し、月報は、原子核工学専攻の全教員に共有され、学生の教育指導に利活用した。

（どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか）

月報に記載される基本コースワーク活動、研究リテラシー活動、研究室活動の各教育活動に対する自由記述欄は、これらの教育活動に対する学生の感想や要望等が自由記述として記載されていて、当システム設計の狙いどおりに貴重な情報として、教員によって学生の教育にフィードバック利活用された。

●広島大学生物圏科学研究科

「食料・環境系高度専門実践技術者養成」の事例

（具体的に何を実施したのか）

- ・ステップアッププログラムのプロセス管理を行うeラーニングポートフォリオ（教育記録システム）の開発と運用を行った。

（実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと）

- ・学生と主・副指導教員がICT（information and communication technology）を用いて、Web上で講義の履修状況、研究の進捗状況などを常に記録・確認できるように、また到達の省察を学生自身が行い、学生の省察に対する教員コメントも記録できるようにした。

- | |
|------------------------------|
| 1. 特に効果的であり改善に資した事例 |
| B. 円滑な学位授与の促進 |
| ⑤ポートフォリオ等を活用した到達度の把握と研究指導の充実 |

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・大学院教育における到達目標の設定およびその査察のシステムを稼働させ、大学院教育の質を保証するシステムが構築できた。